

## ■人族PCβ「外から来た冒険者」個別設定

きみは魔域帝国によって大量に生み出された“奈落の魔域”討伐のために雇われた、冒険者の一員だ。

ゲーリガン海岸諸国家連盟(⇒34、46頁)に所属するウルマリ王国の冒険者ギルド支部、〈奈落討伐団〉から、成功報酬10,000ガメルという破格の依頼を請けている。しかし即席のパーティに“奈落の魔域”攻略は少し荷が勝ちすぎたらしい。きみは仲間とはぐれ、あてどなく魔域を彷徨う。

そして、昨夜。気がつけば、きみはひとつの都市に辿り着いていた。

**推奨技能：**魔法使い系＋任意

**推奨サンプルキャラクター**

エルフの妖精使い(⇒『RL』14頁、18頁)

or ハイマンの神官(⇒『RL』38頁、42頁)

.....(山折り).....

## ●与えられた任務(他者に話すかどうかは自由)

きみは、“奈落の魔域”を彷徨い歩くという、“魔域渡りの貴竜人”<sup>きりゅうじん</sup>と呼ばれるドレイクの討伐を命じられていた。まだ年若く弱い個体らしいが、成長すると魔域と魔神を自在に操る力を発揮する、希少なドレイク貴族のひとりだという。それゆえ人族の脅威になる前に、急いで倒さねばならないのだ。

きみは“魔域渡りの貴竜人”のいる方角が分かる、〈悪魔の血漿石〉がはめられたペンダントを持っている。魔界へのゲートとなる者を探知するために作られたもので、魔法文明時代の魔法の品だ。この宝石の中のきらめく輝きが指し示す相手こそ、倒すべき相手なのだ。

そして〈悪魔の血漿石〉は、北を指し示している。

## ●過去の記憶

きみはまだ物心ついたばかりの頃、奇妙な森で迷子になった。そのとき、同じく迷子になっている少女と出会い、一緒にその森から帰ることに成功した。その子には角があったような気もするが……記憶は曖昧で、それは単なる夢だったのかもしれない。

**目的：**“魔域渡りの貴竜人”を倒す。